

2023年5月21日 午前礼拝
「怒りは聖霊を悲しませる」 説教:大木英雄牧師

【メイン聖句】 Iヨハネ 5:14

何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。

【引用聖句】 エペソ 4:29~32

29. 悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。
30. 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。
31. 無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。
32. お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。

【説教要約】

(1) 伴侶に対する怒り

怒りは聖霊を悲しませる。私はいつも神様に喜んでいただくよう祈っています。遠くの人を怒る人はほとんどいません。私の場合ですと一番近くにいる家内に怒ります。私の欠点を一番よく知っているのは家内です。リハビリの先生から歩くときに膝を曲げて歩いていると注意されると、ひざを伸ばして歩こうとします。

家内から、私が気くばりを出来ないことを注意されると、むかつと来るのです。気くばりが出来ないことを教えてくれてありがとうと言えば、満点です。怒りは神様を悲しませることです。私はいつも神様に喜んでいただくよう祈っているのに、怒ってしまいます。私と家内を結婚に導いてくれたのは神様だと思うと感謝が湧き出てきます。

(2) 両親からの影響

私のお爺さんは、私の父が生まれてすぐにアメリカへ金儲けに行きました。15年たってお金をたくさん儲けて日本へ帰ってきました。父は、おじいさんと遊んでもらったことはないそうです。お爺さんは田んぼや畑をたくさん買って、雇人をたくさん雇って働かせたのです。父も雇い人の一人のようにこき使われたそうです。

父はむなしくなり台湾へ警察官としていき、そこで母と結婚するのです。父はおじいさんと遊んでもらったことがないので、私も父にあそんでもらった記憶はありません。父は子供と遊ぶ遊び方を知らないのです。私は父から叱られたことは一度もありません。ですから先生から叱られても、どう謝ったらよかわからないのです。まして家内から注意されるとむかつと来るのです。私だけではなく親にどのように育てられたかが私たちの人格形成に大きく影響しているのです。

(3) 柏木哲夫先生の本「人と心の理解」という本から

ある婦人が、肩凝りがひどく、首も凝っているので、先生の所へ診察に来ましたが、先生は整形外科の先生に紹介しました。整形外科で MRI をとって調べたが、どこも悪いところはない、これは心の問題だということで、柏木先生の所へ返されました。

先生がいろいろその夫人に尋ねてみると、ご主人は会社のことが忙しくて、家にいても疲れてごろごろしているだけで、私のことに気を使ってくれない。ちょっとでも気に入らないことがあると怒り出すそうです。そして私に注意ばかりしているということです。私はそんな主人に腹が立つのですが、その腹立ちを飲み込んでしまうそうです。そして黙り込んでしまいます。もう口なんか聞きたくないと思います。

主人は私の欠点ばかり目に付くようで、口を開けば私に対する文句や不平ばかり、それを聞いていると私は何も言えなくなって、泣いてしまいます。私が泣くと主人は黙り込んでしまいます。主人がもう少し私の事を考えてくれたらと思います。簡単なんことを決めるにも、二人の意見がなかなか一致しないのです。すぐに感情的になってしまって、お互いを責めるようになります。

もうご主人のことはあきらめて、せめて子供だけはと思い、一生懸命育ててきました。でも娘は大学卒業と同時に結婚します。その後、主人と二人きりになると思うとうんざりします。これは多くの家庭で起こっていることではないでしょうか。

(4) コミュニケーションを妨げる物が3つあります、

「怒り」「涙」「沈黙」です。このご夫婦もご主人が怒ると奥様は黙ってしまいます。これではコミュニケーションが成り立ちません。

エペソ 4:26

怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。

柏木先生は、昼間奥さんとの間に気まずい思いがあっても、夜寝るまでには二人で話し合っ
て祈り、平和な心で眠りにつきたいと思います。と言っておられます。

(5) 家内との間でコミュニケーションがうまく行かない場合は、

家内に問題があるので家内を直そうとしています。しかしカウンセリングで学んだ事は、「過去と他人は直らない、直す事が出来るのは自分と将来だけ」です。相手を直そうとすると相手は怒ります。自分を直そうとすると、なかなか直らないので、相手を攻め無くて済みます。

私と家内を結婚させてくださったのは神様ですから、神様が何とかしてくださると信じる
ことが出来ます、相手を責めなくて済みます。

(6) 怒り = 普遍的な罪

ヘンリーブランド博士は、怒りは、人類の持つ普遍的な罪の一つである、数百人のカウンセリングをして、私は「あらゆる緊張の根源は怒りと恐怖のどちらかである」という結論に達したと言っています。

(7) 怒りによる莫大な損失

(ア) 情緒的に

抑圧された怒りは、情緒的に人を狼狽させ、このような状態のもとでは、人はとかく有害な、決定をしてしまう。しかしもし私たちが、怒りに身を任せるなら、怒りの故に妻子に対する愛を現すことが出来ず、自分の家族と楽しむ代わりに、怒りをぶちまけてしまうのです。「私が誰かを嫌い始めた瞬間、私はその人の奴隷になってしまう。彼が私の思いまで支配してしまいます。」

(イ) 社会的に

怒りっぽい人がいると不愉快です。その結果、怒りっぽい人は社交のリストから外されていきます。集まって冗談を言い合うときにも仲間外れにされてしまいます。これは夫婦間でも、怒りっぽい人がいると、払わなければならない犠牲です。

(8) キリストを受け入れていない人

人間の最も重要な部分は、「知力」と「意志」と「感情」です。人間は「知力」の中に何を入れるかによって感情的に影響されるのです。知力の中に何をいれるかはその人に意志によって決まります。神様に従わないことを知力によって意思決定すれば、神様に喜ばれないような行動を始めるのです。

すべての罪は「知力」から始まります。人は殺人をする前に、怒りを「知力」の中に秘めているのです。人は姦淫の罪を犯す前に、「知力」の中に情欲を抱いているのです。一方、聖書は、「神様が人間のさまざまな感情を抑え、正しい道に導いてくださる」と教えています。ある人が「あなたは読むものに似たものになる」と言っています。

人は好色文学を読むか、聖書を読むかを選択する。何であれその人が自分の「知力」の中に取り入れる物によって影響される。神様に喜んでもらいたいと思えば、そのように行動するのである。

「霊的」に

怒りっぽく苦々しい性質のために最大の損失を受けるのは、霊的な領域である。イエス・キリストはクリスチャンが死ぬとき永遠の命を与えてくださるばかりでなく、今ここで豊かな命を与えるために来られたのです。そのような生活は「御霊に満たされる」ことによってのみ与えられるのです。聖霊を悲しませるような人は誰も、御霊に満たされることはできません。

ガラテヤ 5:19~21

19. 肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、
20. 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、
21. ねたみ、醜妬、遊興、そういった類のもので、前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。

肉の行い=自己中心

マタイ 16:21~23

21. その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならぬことを弟子たちに示し始められた。
22. するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」
23. しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

ペテロは、善意で「イエス様が十字架につけられて殺されるはずはありません」と言ったのです。クリスチャンは善意で行動をしています。しかしいくら善意でも、主のみ心でないことは、自分の考えなのです。自己中心なのです。そんなことを言ったら「自己中心でない事はあるのですか」あります。

マタイ 22:39,

『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいてつです。

『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』これは自己中心ではないです。

Iヨハネ 5:14,

何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。

(9) 怒りの根本原因

平安で、好ましく、おだやかな人が突然怒り出すことがあります。いったい何が原因だったのでしょうか。「私は怒りっぽい性格で」とか言ってごまかす人がいますが、仮面をはぎ取ると、その人の本当の原因は「自己中心」という罪が原因なのです。

私が怒ったことを反省してみるとすべては「自己中心」が原因です。私の「自己中心」は自分の娯楽の為ではなく、伝道のための自己中心なのです。家内に言わせると、競輪競馬の為であれば文句が言えるが、伝道の為だと文句が言えないというのです。良いことであれ悪いことであれ怒りの原因は「自己中心」が原因です、反省しなければなりません。

「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」

Iヨハネ 5:14,

何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。